

厚木市都市農業振興計画中間見直し検討委員会

農業者アンケート結果及びヒアリング結果

厚木市農業政策課

厚木市都市農業支援センター

アンケートの追加集計

- 1 集計結果（問 2、問 3）
（集計内容）
問 2「課題」及び問 3「支援」を農業者の年代別及び地域を集計

- 2 集計結果（問 1）
（集計内容）
問 1 の 4 で「農業継続が困難になった場合は、農地以外の土地利用を検討したい」と回答した農業者を抽出し、農業者の年代及び地域を集計

- 3 クロス集計結果（問 1）
（集計内容）
問 1 の 4 で「農業継続が困難になった場合は、農地以外の土地利用を検討したい」と回答した農業者を抽出し、問 2「課題」及び問 3「支援」をクロス集計

ヒアリング実施方法等

- 1 目的
厚木市都市農業振興計画の中間見直しに関して令和 4 年 7 月に実施した農業者アンケートの結果を基に、営農継続に向けた支援や農地保全に関して課題を整理し、方向性を検討するため、ヒアリングを実施した。

- 2 対象者
アンケート結果や第 1 回本検討委員会での意見を踏まえ、年代、性別、業種等を考慮し、約 20 人の農業者を対象とした。

- 3 実施日
令和 4 年 8 月 10 日（水） 午前の部、午後の部の 2 回に分けて実施

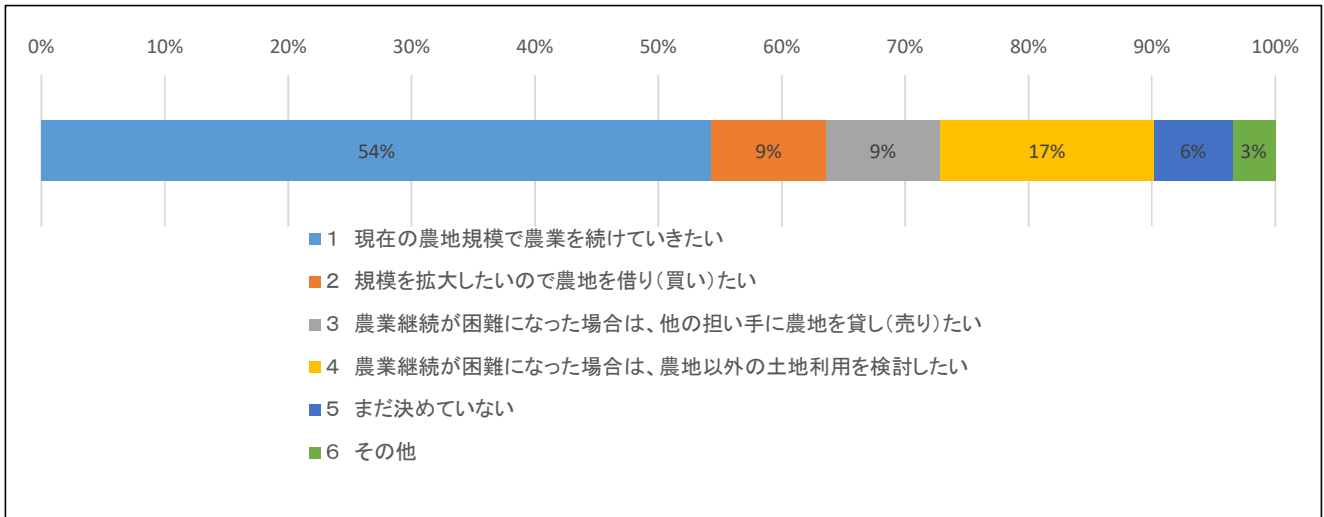
- 4 内容
（1）営農継続に向けた支援について
（2）農地保全について

1 回収率

配布数	回収数	回収率
314	178	57%

2 集計結果

【問1】ご自身の農業経営や農地について、今後(5年～10年程度)どのようにしようとお考えですか。近いものを一つだけ選んでください。(〇印及び記入)

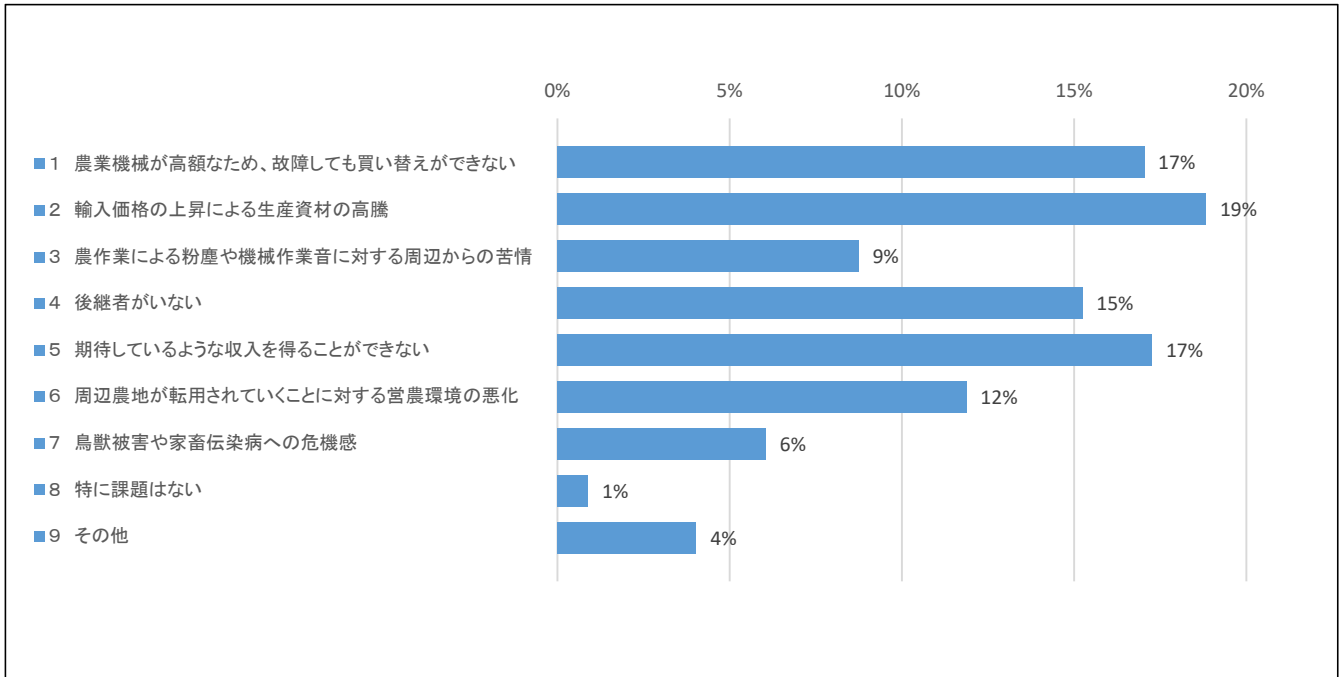


	1 現在の農地規模で農業を続けていきたい	2 規模を拡大したいので農地を借り(買)いたい	3 農業継続が困難になった場合は、他の担い手に農地を貸し(売り)たい	4 農業継続が困難になった場合は、農地以外の土地利用を検討したい	5 まだ決めていない	6 その他	回答者数
回答	94 54%	16 9%	16 9%	30 17%	11 6%	6 3%	173 100%

【6「その他」の主な回答】

- 借畑なのでそのまま続けたい。
- 農地なし。
- 現在兼業農家である。
- この1年で明日もどうなるかわからない。

【問2】農業を続けていくに当たり、どのようなことが課題であると考えられますか。当てはまると思うものを全て選んでください。
(○印及び記入)

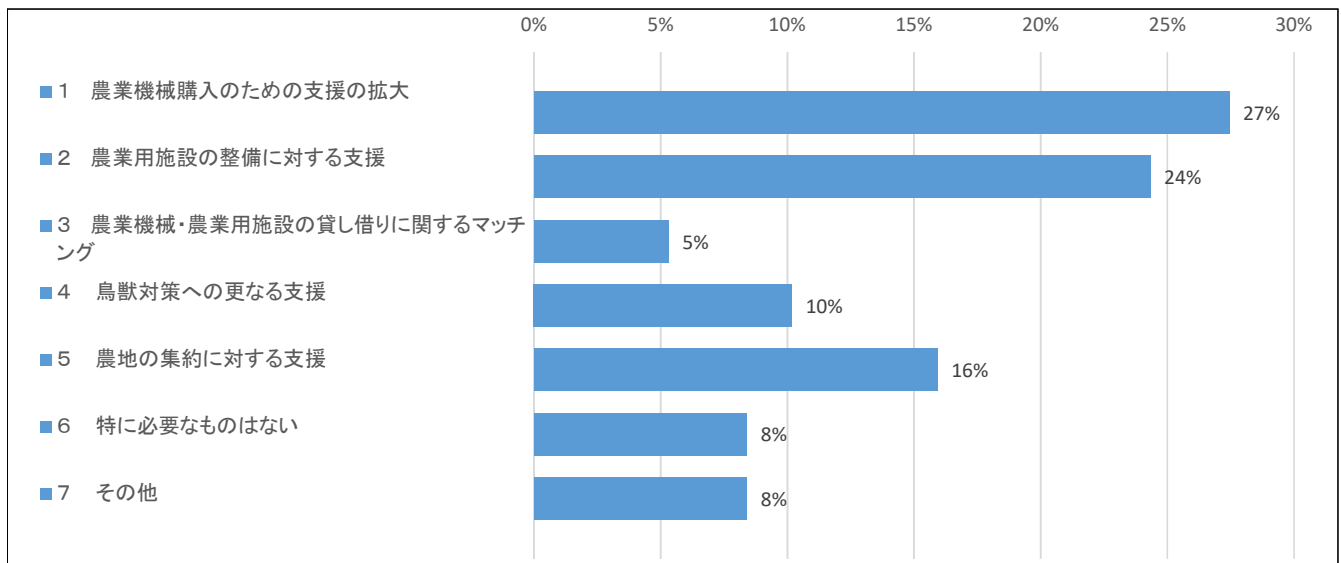


	1 農業機械 が高額な ため、故障 しても買い 替えがで きない	2 輸入価格 の上昇に よる生産 資材の高 騰	3 農作業に よる粉塵 や機械作 業音に対 する周辺 からの苦 情	4 後継者が いない	5 期待してい るような収 入を得るこ とができな い	6 周辺農地 が転用さ れていくこ とに対する 営農環境 の悪化	7 鳥獣被害 や家畜伝 染病への 危機感	8 特に課題 はない	9 その他	回答者数
回答	76 17%	84 19%	39 9%	68 15%	77 17%	53 12%	27 6%	4 1%	18 4%	446 —

【9「その他」の主な回答】

- 最近農産物の盗難が増えている。
- 後継者はいるが農業を行うかは未定
- 年々「もみがら」の受け入れ先が減っているため、処分先の確保
- 農業機械を置くスペースがない。
- 周辺農地の荒廃化による農作業の負担増
- 後継者を育てず、目先の新規就農者に力を入れ過ぎてること。いずれ厚木の地のちゃんとした専業農家がいなくなると思う。
- 自身の体調、意欲

【問3】農業を続けていくため、あなたが必要だと思う市の支援を教えてください。(当てはまるもの一つだけ○印及び記入)

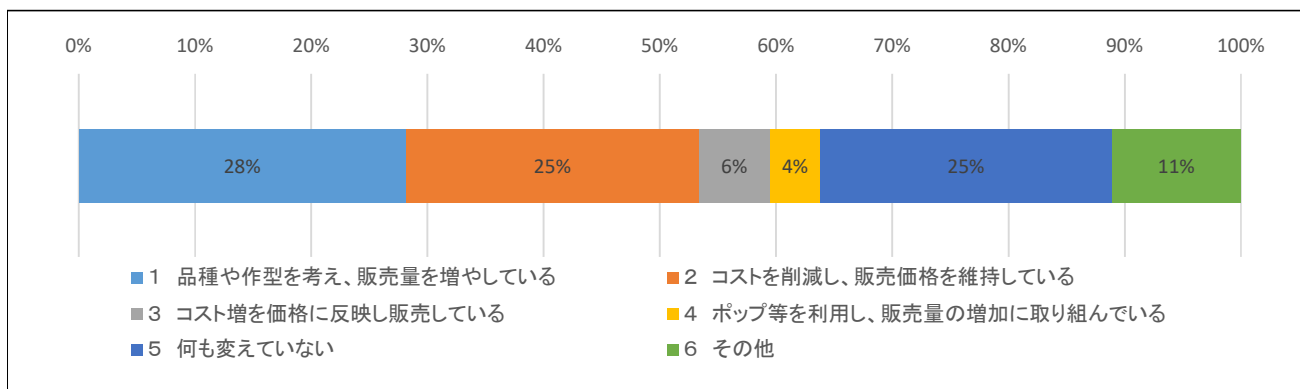


	1 農業機械 購入のた めの支援 の拡大	2 農業用施 設の整備 に対する 支援	3 農業機械・ 農業用施 設の貸し 借りに関 するマッ チング	4 鳥獣対策 への更な る支援	5 農地の集 約に対す る支援	6 特に必要 なものな い	7 その他	回答者数
回答	62 27%	55 24%	12 5%	23 10%	36 16%	19 8%	19 8%	226 —

【7「その他」の主な回答】

- 農畜産物の価格安定対策があればいい。
- 農業用水路整備など。
- 農道整備
- 農業機械の大型化のため、運搬するトラック購入のための助成等
- 特産物(厚木の風土にあった)の指導
- 農業所得向上のための補助
- 地盤低下の補填等(水田)
- モミガラの燃料化や肥料化
- 後継者が意欲的にやっていけるような支援
- 除草とかトラクターでの耕耘を依頼したい。
- 後継者の確保が前提だが、少なくとも一定の農業所得が得られる環境の構築への支援が必要

【問4】生産資材の価格上昇により、農業を取り巻く情勢は年々厳しさを増しています。このような状況下で、あなたが農業所得の向上のために取り組んでいることはありますか。近いもの一つだけ選んでください。(○印及び記入)

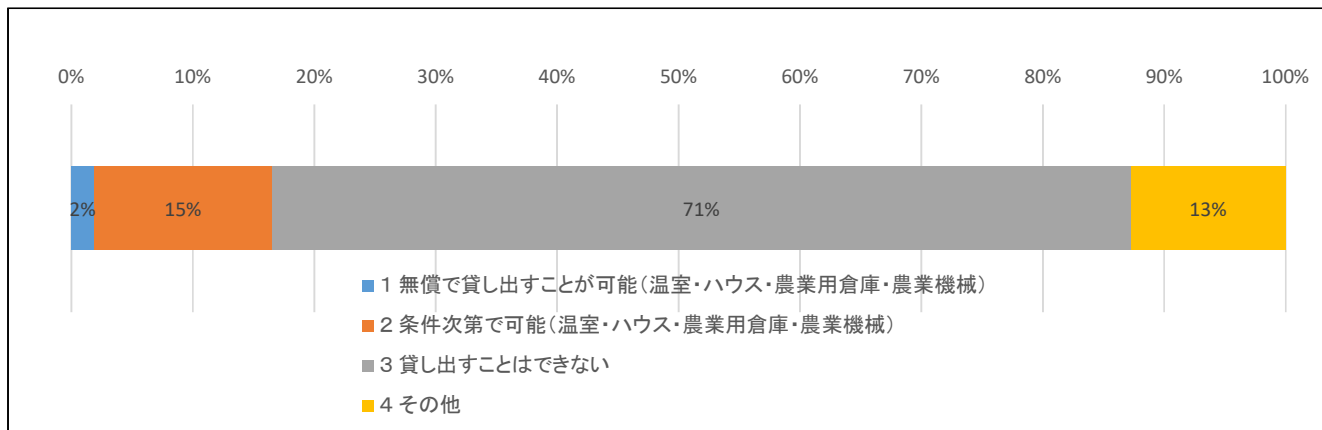


	1 品種や作型を考え、販売量を 増やしている	2 コストを削減し、販売 価格を維持している	3 コスト増を 価格に反 映し販売し ている	4 ポップ等 を利用し、販 売量の増 加に取 組んでいる	5 何も変えて いない	6 その他	回答者数
回答	46 28%	41 25%	10 6%	7 4%	41 25%	18 11%	163 100%

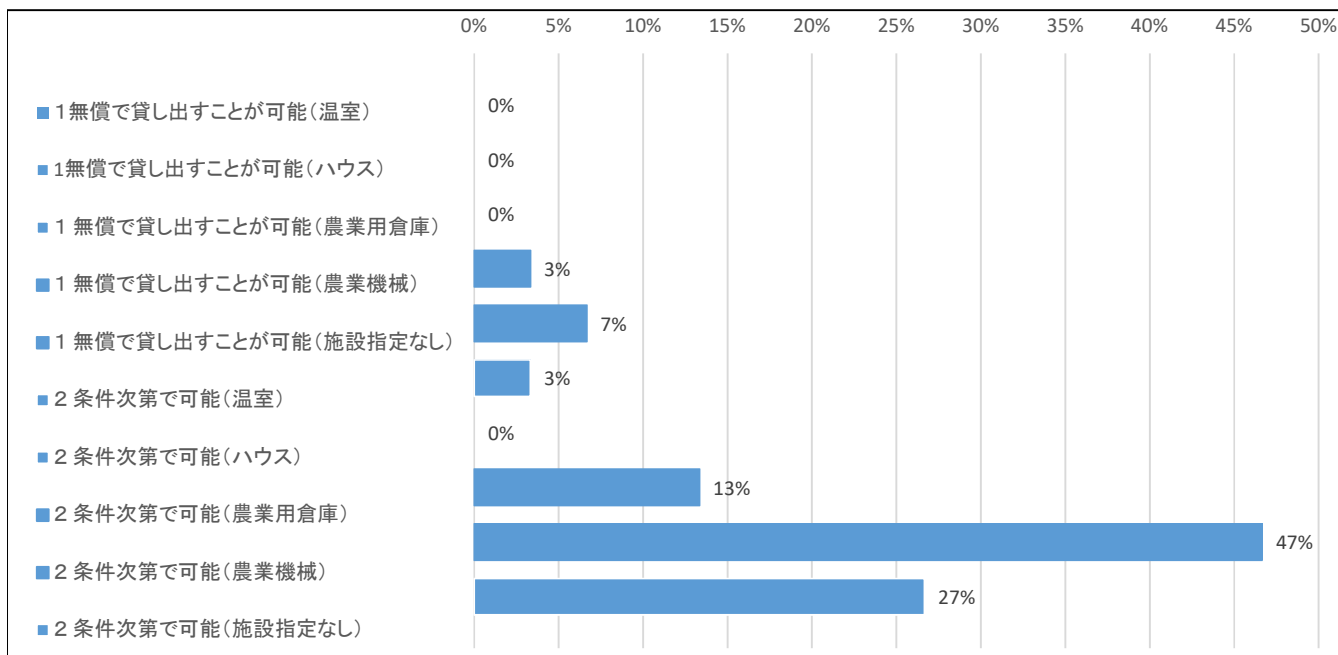
【6「その他」の主な回答】

- 現在は何も取り組んでないが、品種や作型を考えていく。
- 市場出荷を減らし、直売所等に重点をシフトした。
- 状況に応じてできることをやるしかないと思う。
- 自家消費
- 自宅のショップで販売している。
- JA出荷が90%なので、コストの削減を心がけている。
- 他の生産者よりもさらに良いものを栽培している。

【問5】都市農業を取り巻く環境は、近隣に新たな住宅が建築されることに伴い、農作業による粉塵や機械作業音に対し苦情が発生するなど、厳しい環境下にあります。そこで、あなたの所有している、現在使用していない施設等(温室・ハウス・農業用倉庫・農業機械)を担い手等に貸し出すことは可能ですか。(○印及び記入、1又は2を選んだ方はカッコ内も○印で記入)



	1 無償で貸し出すことが可能(温室・ハウス・農業用倉庫・農業機械)	2 条件次第で可能(温室・ハウス・農業用倉庫・農業機械)	3 貸し出すことはできない	4 その他	回答者数
回答	3 2%	23 15%	111 71%	20 13%	157 100%

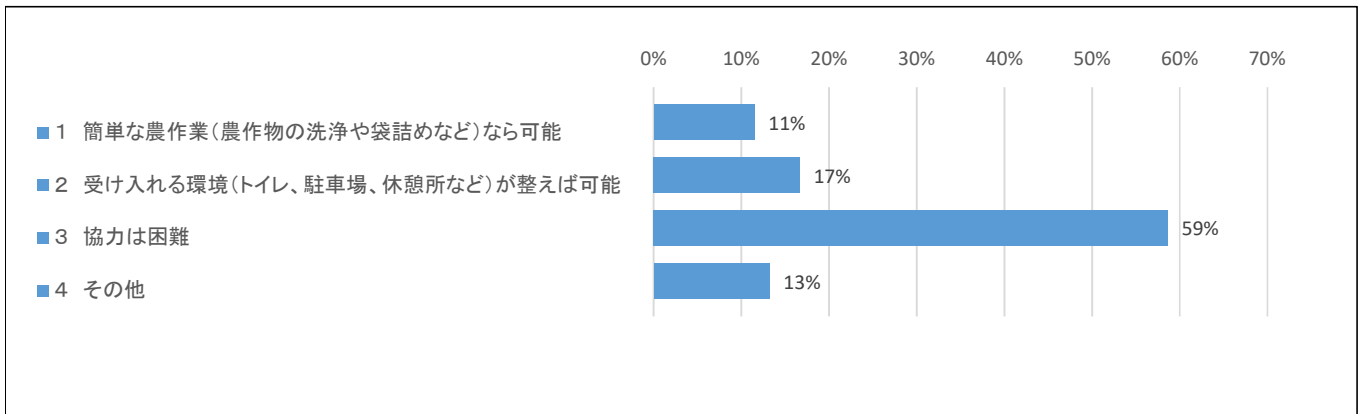


	1 無償で貸し出すことが可能(温室)	1 無償で貸し出すことが可能(ハウス)	1 無償で貸し出すことが可能(農業用倉庫)	1 無償で貸し出すことが可能(農業機械)	1 無償で貸し出すことが可能(施設指定なし)	2 条件次第で可能(温室)	2 条件次第で可能(ハウス)	2 条件次第で可能(農業用倉庫)	2 条件次第で可能(農業機械)	2 条件次第で可能(施設指定なし)	回答者数
回答	0 0%	0 0%	0 0%	1 3%	2 7%	1 3%	0 0%	4 13%	14 47%	8 27%	30 —

【4「その他」の主な回答】

- 所有施設はない。
- 地域によって違いがある。苦情がでないよう、近隣住民との調和を行えば苦情はでない。
- 今のところ友人や親せきの手伝いで荒れているところはない。
- 小面積の畑がちらばっているので、利益は何もない。

【問6】本市では、今年度、農福連携※の一環として、試験的に障がい者の就労を受け入れていただく農業の方へ協力金をお支払いします。あなたは、どのような場合であればご協力いただくことが可能ですか。なお、福祉施設職員による作業の常時見守りが前提となります。(当てはまるもの全てに○印及び記入)



	1 簡単な農 作業(農作 物の洗浄 や袋詰め など)なら 可能	2 受け入れ る環境(ト イレ、駐車 場、休憩 所など)が 整えば可 能	3 協力は困 難	4 その他	回答者数
回答	20 11%	29 17%	102 59%	23 13%	174 —

【4「その他」の主な回答】

- 協力したい想いはあるが、設備体制が整っていない。また農福連携に沿う作業が見当たらない。どのように農福連携を考えているのか、行政のプランや理念は聞いてみたい。
- 農業面積が小さく、他の協力を必要としない。
- 用地が少ないため。
- 人手は足りている。
- 自家消費をする生産しか行っていない。
- 残念ながらそういった環境にはない。
- 特定作物(しゃがいも、サツマイモ)を収穫する際に必要
- 検討の余地はあるが、もう少し条件等の話が必要
- 今後考えていることがある。

3 自由意見

NO	自由意見
1	この所の農業を取り巻く環境は非常に厳しくなっている。世界的なコロナ禍での物流の停滞による値上げに始まり、ロシアのウクライナ侵攻による原油の高騰、生産資材、飼料の不足など今まで経験したことがない事態となっている。農業経営の先行にこれほど不安を覚えたことがない。
2	昨日、どこでもSDGSとはやしたてているが、具体的な内容が無いように思う。自身が営む有機農業は、昔から地域内での循環を念頭においているので、農業からSDGSを発信できていると感じている。ついては、国策でもある有機農業の推進と行政の考え方について、お聞かせ願いたい。以前は環境保全型農業に対して、補助金の交付をいただいていたように思う(団体向け)。そのような団体の設立は、行政の理解なしでは立ち上げられない。世界情勢などを鑑みて、厚木市としてもう一度、そのような団体の設立を作ることに對しての意見をいただきたい。
3	都市化により日中散歩や犬の運動等で、農道であった道を歩く人が増えた。トラクターなどの農機で通る時、大変苦勞する。怒る人も中にはいる。農業車両優先道路と書いてある看板を設置できないか。看板があることにより道を通る人も考えてくれるのではないか。
4	残念ながら、どのような状況になっても個々の努力しかないと考える。個々の資質の向上が大事だと思う。参考になるような勉強会等の開催も(リモートを含めて)期待する。
5	農地流動化奨励金の在り方について、増額と受け手に厚くしてほしい。貸借者同額ではなく。
6	農地利用規制を見直して欲しい(自由に活用できるよう)農家を規制でしほらないようお願いしたい。
7	高齢のため、現在販売しているのは米だけ。米の価格がもう少し高くなればと思う。肥料等が上がっているので大変。畑は野菜等を作っているが、販売はせず、近所や非農家の方にさしあげている。
8	田畑に空き缶等のゴミが捨てられている。ここ3・4年特に多くなった。
9	厚木市において、水稻農地は狭小で不形成地が多く、個々の所有面積が少く経営していくことが困難である農家が多く見受けられる。地域でまとめていく方策を早急に実施することが求められている。借りる人も今後のことを真剣に考えている。是非、行政と農家との話し合いをお願いしたい。
10	厚木市の農地が年ごとに少なくなっていく様で、心淋しい思い。6月緑の苗がきれいにそろった水田、秋には黄金色にかがやく稲穂の波、いつまでも心に残る風景です。農業のご苦勞はいかばかりかと思う。農業を続けたい者にとって、農地を手放すということはどれだけ心苦しいものかと思う。ひばり団地の万代など思うと悲しい思いで一杯。幸いにもひばり団地は、団地の皆様の団結力ですばらしいと思った。何かよい案はないか。思いのまま勝手なことを書かせていただきますすみません。
11	自分としてはサラリーマン定年後に父親から引き継いだ田んぼで、稲作をしている。野菜は自分たちで食べるものくらいしか作っていない。稲作も父親が機械をそろえたので、出来ている。新しい機械をそろえて続けるのは難しいと思う。しかし、田んぼの環境の面でも、生活になくてはならないものとする。まわりを見てもボランティア的に田んぼをやっている人が多いと思う。補助金等でもっと農業を支える仕組みを考えないと厚木市の農業の未来はないのではないか。
12	市内でも地区によって、状況は異なると思うが、私の地区では専業農家は少なく、農業所得を主としている人は少ないように思われる。また共通している問題と思うが、後継者がいないこと。現在、農業に従事している人がやめると、農地が荒廢地になっていく。農協もやめてしまう家が多い。所有している農地1つ1つが小さく、点在しているため、まとめるのが難しい。その辺の解決策が見つければいい。
13	以前、水田を借りる際に、前年度は耕作をしていたと聞いて借りたが、一部が稲作ができない荒地で、2年程無駄な作業と支出が増えたことがあり、調査や重機での支援等して欲しい。
14	物価上昇はきびしいが、農産物の価格転嫁は非常に大変であり、収入所得は減少するものと思う。

3 自由意見

NO	自由意見
15	安易な除草剤の使用について。私は使わないが、近隣の畑、あぜ道、道路、空き地で、除草剤が使用され、草が茶色く枯れたり腐ったりしているので、すぐ分かる。安全性が保証されていない訳で、当方の畑の作物に、風に乗って噴霧されたものが、かかっているかも知れない。そんな商品をお客様、とりわけ幼児が食べると思うと、空恐ろしい。
16	現在、水田2.0haと畑8aだが、近年中に双方とも耕作を中止する予定である。
17	農業では生活出来ない。土地も小面積でちらばってあるので貸し出しもできない。近年はまわりの耕作している方も、草刈りしない荒れた土地で作物を作っており、とてもではないが貸し出しはしたくない。以前、貸し出したらゴミ捨て場にされた。子供は会社員であり、昔と違って会社でのストレスが多く、休みの日には手伝わせたくない。私が元気な時は、土地の管理はできるが、その後は荒れ放題になると思う。畑・田を借りて農業している方を見ると、あまりにもひどくて私も迷惑している。
18	現在は、増やすことのできた農地をうまく使って生産量を上げていくことに力をいれているところなので、特に大きな問題はない。将来、生産量が増えてきたときに、色々な販売先があれば、とてもありがたいと思う。厚木市内の中に地域の農産物を扱った販売店などがあれば、農業者と販売店をつなげてくれるような地域のサービスがあれば、大変ありがたいと考えている。
19	農業収入だけでは農地の管理はできないのが実情で、特に下沖地区は、他に収入を得ることもできないので、将来的には耕作放棄となる可能性がある。
20	玉川地区では耕作放棄された農地が増えている。貸し出すにも、機械が入っていけない農地が多い。農道を整備してトラクターが入っていけるようにしなければ、竹林や森林になってしまうので、農地の集約化と併せてお願いしたい。
21	現在、私は軽度の障がい者になり、障がい者の働く場の提供を考えていた。今回このようなアンケートがあったので、問6に対して興味がある。もう少し、具体的な話しをお聞きしたい。
22	農地(特に道路側)へのゴミ(飲み物の缶)、古タイヤなどの不法投棄があり、日々、拾い集めているが、まとめて回収に来て頂けると助かる。かなりの量になる。農地に近い施設にある簡易トイレの使用。農業体験、援農時にお貸し頂けると助かる。(例えば山際スポーツ広場)
23	SDGS、食料安全保障などを考え、広い視野を持って厚木市の農業を発展できるような政策を実施するべし。
24	<p>現在、私が行っている農業は中山間地の小さな畑に露地野菜を作付けし、自家消費や他所で生活している子供たちへの供給などを行っている。したがって、アンケートは少々不適切な設問があるが、都市農業振興計画に対しては、俯瞰的な視点から意見を述べさせていただく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都市農業振興に適した地域や農地群を特定し、費用対効果を考察し、その地区に集中投資する(中山間地や農地が点在し、また農道の整備がされていない区域は高い費用対効果が得られない) 2 都市農業に適した、新鮮な農産物が都市部に供給されるように作物別に供給網やシステムを構築し、他所と差別化を図る。 3 地域に適した、農地の性質や機構、古くから営まれてきた産物などを発掘し、上記2で述べた供給網と合わせ地域特産化を指向する。 4 新規参入者を誘致するとともに、上記2, 3に合致するような指導体制を構築する。地の利を生かせる地域への集中投資で持続的な経営ができる産物を考察するのが一つの方法ではないかと考える。
25	厚木市の都市化、高速道路ネットワーク、農業後継者不足の現状を考えると、小規模の農地は農地以外の土地利用を考える時期にきているのではないかと。高速道路ネットワークに恵まれている厚木市は、都市間競争に負けないような方針を検討する必要があるのではないかと。
26	私は67歳までサラリーマンだった。退職前までは兼業農家で現在は専業農家だが、息子が農業を継ぐかはっきりしないため、農業機械等を購入することもできず、現状維持で行っていく。

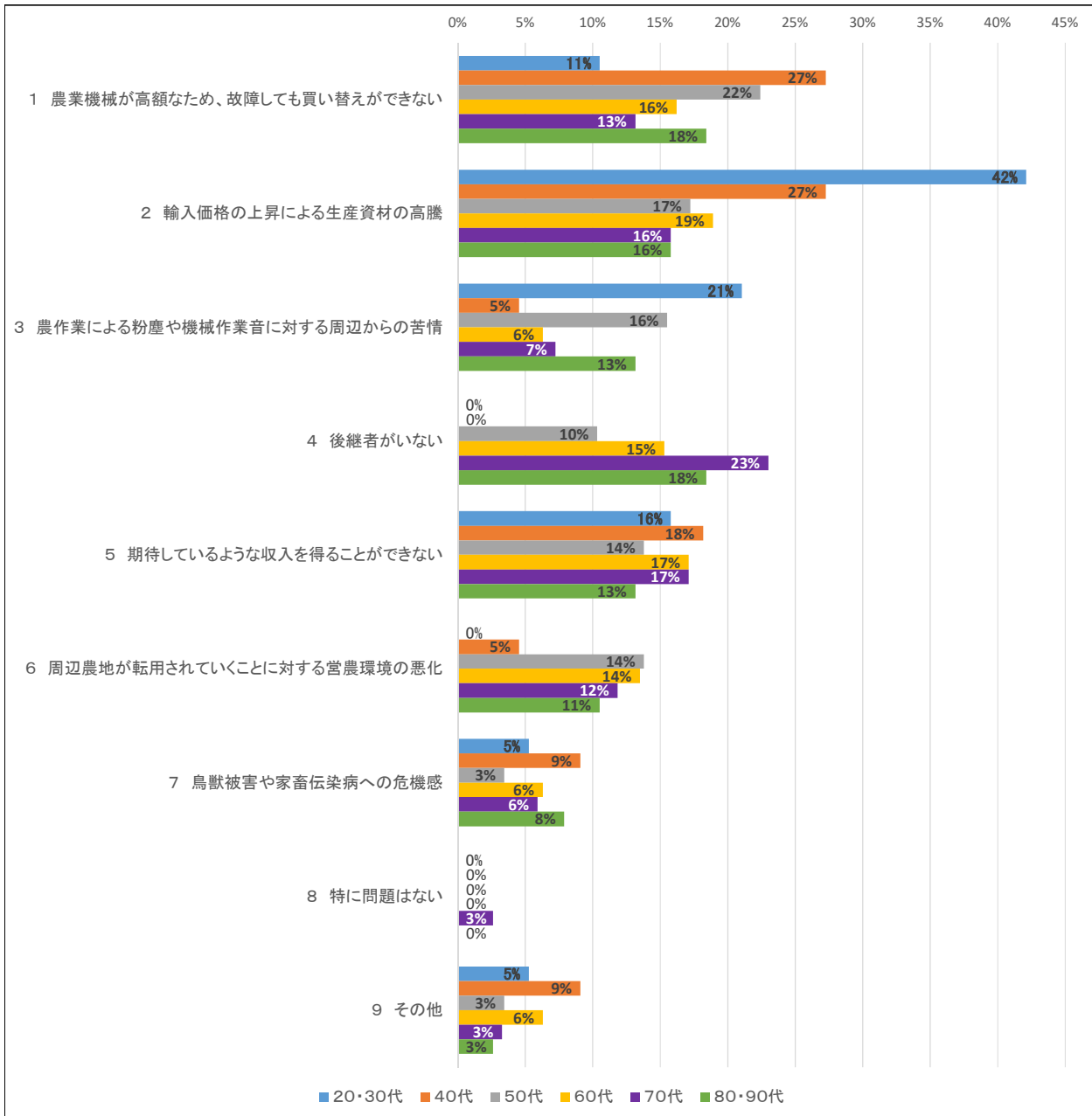
3 自由意見

NO	自由意見
27	農業者の一層の高齢化、荒廃農地の急増、後継者不足、生産資材の高騰等時代は刻々と変化しているので、この振興計画も迅速に対応しないと計画倒れになり、実現が厳しくなるとされる。
28	当地区は流通センターが検討されているが、徐々に開発されていくことを望む。市も開発に協力していただければ、地区も活性化されていくと思う。
29	中山間地の農地は、分散地や狭小地が多く、荒廃農地が多くなっている。将来に向かっては、農地を集約整備する、土地改良事業を積極的実施してほしい。
30	農業用水路や、農地へのごみの投げ捨てが多くて困る。船子堰関係の用水の清掃を生産組合で実施しているが、高齢化が進み、困難となってきたので、行政の協力が必要。
31	将来的には、農地(特に当地区では田んぼ)の集約化が確実に必要ではないかと思う。
32	専業農家で後継者も頑張っていて、研修生の受入れや小学生の社会科の授業等にも協力している。市内で後継者が育って野菜専業として営農している農家は少なくなった。都市化の中で厳しい状況が続くが、営農を継続していくので色々な面で応援していただきたい。私達のような営農をしている農家がいることを知ってほしい。声が届くことを祈る。
33	野菜を作るために必要不可欠な資材、燃料その他諸々の値段が上がるのに、野菜の値段はあまり変わらず、地元の直売所にはいわゆる「生活のかかっている人」の作る安価な物が並び、新規就農者はとても厳しい状況だと思う。専業で生計を立てていくのは難しく、営農を続けていくためには何か別の仕事と兼業でやっていくのがよいのではないかと思う。
34	問3にある農業機械購入に関して、現在どのような補助があるのか不明であるので発信してほしい。
35	市で様々な面で補助が行われているが、一般の方にとどこまで伝わっているのか。
36	自分も高齢なので知識や体力には限界があり、家庭菜園程度の農業と草刈りで農地の保全に務めている。一応農家なので生産組合に入っているが他の生産組合でも同じようなことが多いように思われる。
37	耕地の中央を市道が通り、近年交通量が多く、作業用の軽トラの駐車に加えて水田の出入りに苦労している。対策してほしいので一度現地に来てほしい。
38	耕作放棄地、空き農地の雑草に困っている。農業委員会はしっかりとした管理体制をつくってほしい。
39	問4に関して、販売価格は市場価格を指標に決めていると思う。市場価格は生産者が決められるものではなく、買う側が価格を決め、買って行くので生産コストが上がっても反映されることは少ない。
40	生産緑地指定約3反、現状この農地において小規模生産を行い、直売所等に出荷している。
41	・食品ロスと規格外商品(B級品)の取扱いと消費販路の確立 ・規格外商品の地場消費を考えた組織づくり
42	果樹苗木を地植えできるような農地があったら紹介してほしい。
43	農業振興のためには農家の利益が上がる必要がある。そのためには作物が高く安定して売ればよい。今ある販路に加え、学校給食への野菜の供給アップ(市内に23の小学校があり、毎日給食を食べている。相当な量なのに野菜の注文が少ない)の検討ができないか。
44	後継者の立場であっても新規就農者と同じく資金がない。所得の低い農業では貯蓄はほぼなく、親から継承できるものは古い農機具くらいで、新たな事業にチャレンジしたり投資をすることが困難なため経営体としての成長が見込めない。自分がメインとして栽培しているトマトを軸とした営農計画を一緒に考えてもらいたい。そして行政として後継者への資金投資や人材投資に力をいれていただきたい。かながわブランドの厚木トマトをもっと有名にして盛り上げたい。

3 自由意見

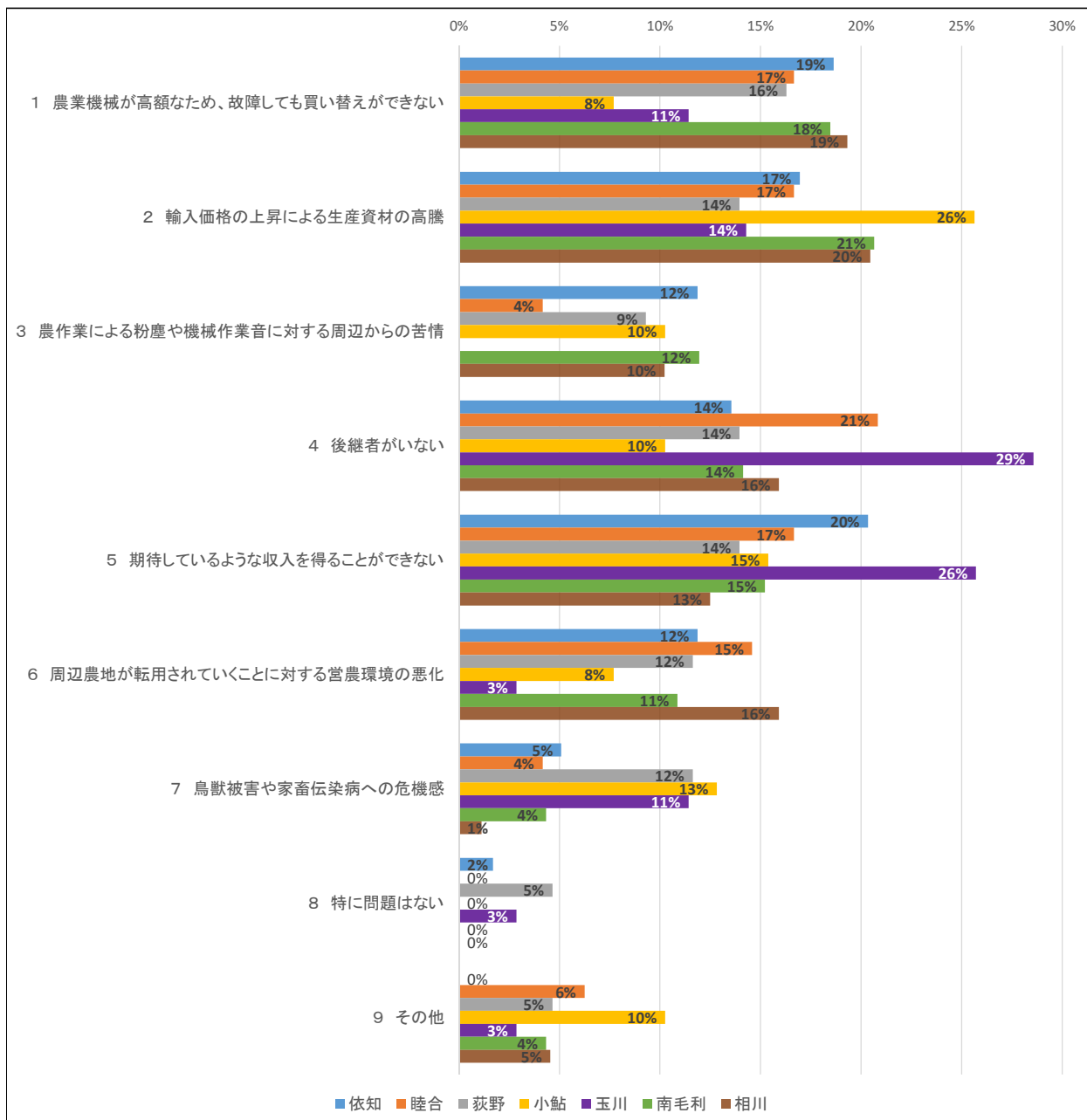
NO	自由意見
45	父より田んぼを受け継ぎ、田んぼの草刈りに苦戦している。しかしお米ができるのが楽しみで食と農業の大切さを身に感じた。たくさんの若い人に食と農業の大切さを知ってもらいたい。
46	東京・神奈川での農業は都市型農業で市場に近く有利な点はあるが、その存在の必要性は本当にあるのか。このアンケートの内容も現状下での問題点とはかなりかけ離れていると思う。もう少し農家目線でのアンケートにしてもらいたかった。経営的にも数年前より飼料価格が上がり続けていおり、今、いつ廃業しようかと思っている。問題は山積している。
47	命をつなぐ食料を生産している農業は、他産業と同じ枠に括るべきものではない。空気や水と同じく、食糧がなければ人々は生き続けては行けない。そういうことから農業は神聖な業態である。しかし、そこに携わる人々が他産業並みの生活、所得を得られているかと言えばそうではない不条理な状況にあり、後継者、担い手が減るのは当然の事だろう。現在、農業者に対するスポット的な助成が数多く施策されているが対処療法である。根本的な方法として、食糧生産に携わる後継者、担い手に対する恒久的な直接所得補償制度が確立され、他産業に引けを取らない所得、生活が保障されれば自ずと後継者、担い手は増えて行くものとする。
48	鳥獣被害のうち、カラスの被害が目に見え余る。豆類を播種すると、発芽したところでついばんでしまう。トマト・ナス・キュウリ・ズッキーニなど果菜類は、くちばしでつつかれてしまう。ポット育苗の苗を引き抜かれてしまう。被害を防ぐための労力がバカにならない。糸を張ったり、発芽までシートでおおったり、その対策を2重(パスライトのシートだけだと、発芽した枝豆・大豆をシートを破って被害をうけるので、釣糸も張っている)でやらなければならないこともあり、困っている。カラスの駆除をお願いしたい。生産組合の回覧にも同様のことを記入しているが、駆除の効果は目に見えない。タヌキ、ハクビシン、アナグマの落花生、トウモロコシの被害は電気柵で減少傾向だが、柵の設置手間はある。

【問2】農業を続けていくに当たり、どのようなことが課題であると考えられますか。



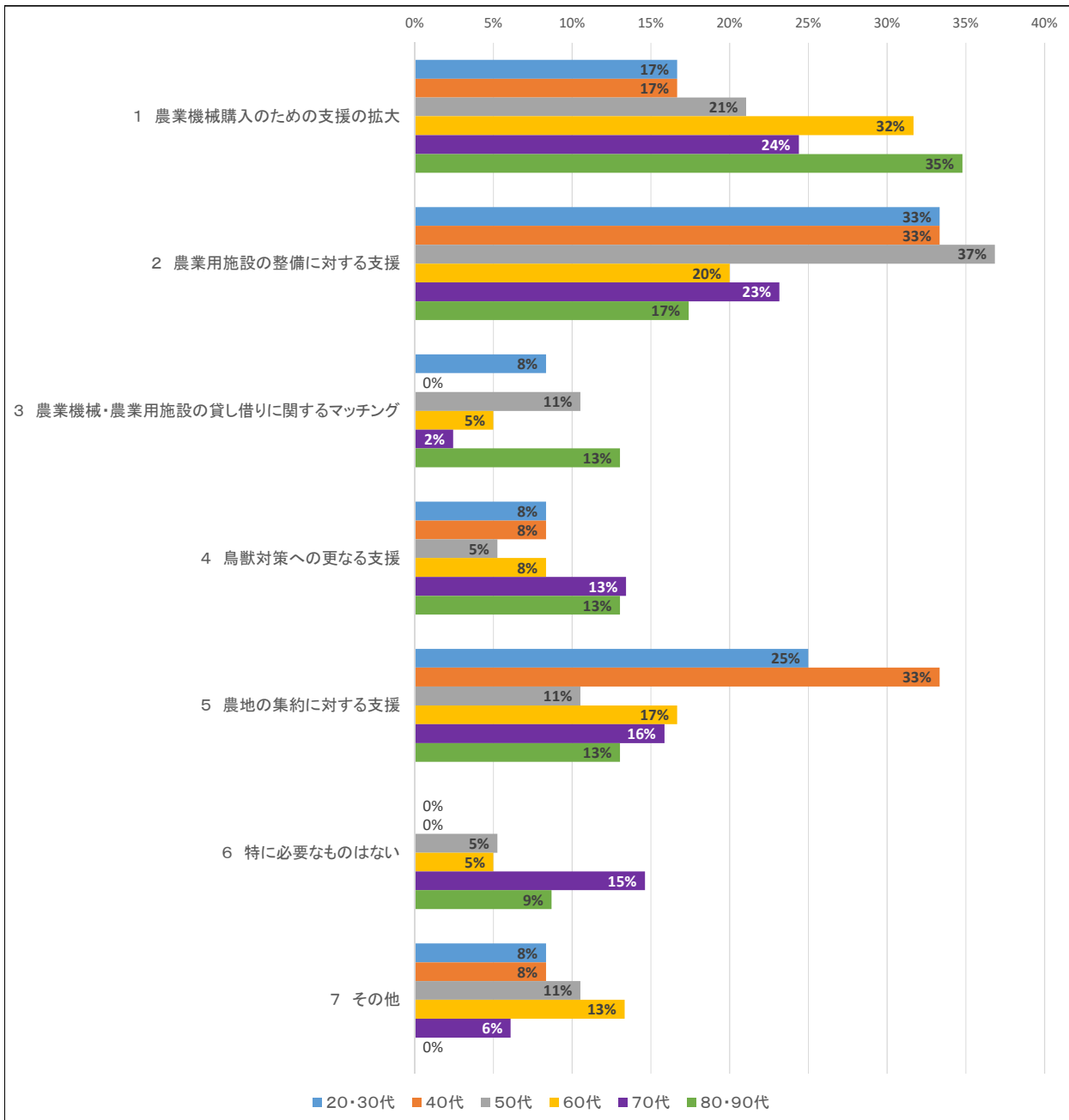
	1 農業機械が高額なため、故障しても買い替えができない	2 輸入価格の上昇による生産資材の高騰	3 農作業による粉塵や機械作業音に対する周辺からの苦情	4 後継者がいない	5 期待しているような収入を得ることができない	6 周辺農地が転用されていくことに対する営農環境の悪化	7 鳥獣被害や家畜伝染病への危機感	8 特に問題はない	9 その他	回答者数
20・30代	2	8	4	0	3	0	1	0	1	19
	11%	42%	21%	0%	16%	0%	5%	0%	5%	—
40代	6	6	1	0	4	1	2	0	2	22
	27%	27%	5%	0%	18%	5%	9%	0%	9%	—
50代	13	10	9	6	8	8	2	0	2	58
	22%	17%	16%	10%	14%	14%	3%	0%	3%	—
60代	18	21	7	17	19	15	7	0	7	111
	16%	19%	6%	15%	17%	14%	6%	0%	6%	—
70代	20	24	11	35	26	18	9	4	5	152
	13%	16%	7%	23%	17%	12%	6%	3%	3%	—
80・90代	7	6	5	7	5	4	3	0	1	38
	18%	16%	13%	18%	13%	11%	8%	0%	3%	—
合計	66	75	37	65	65	46	24	4	18	400
	17%	19%	9%	16%	16%	12%	6%	1%	5%	—

【問2】農業を続けていくに当たり、どのようなことが課題であると考えられますか。



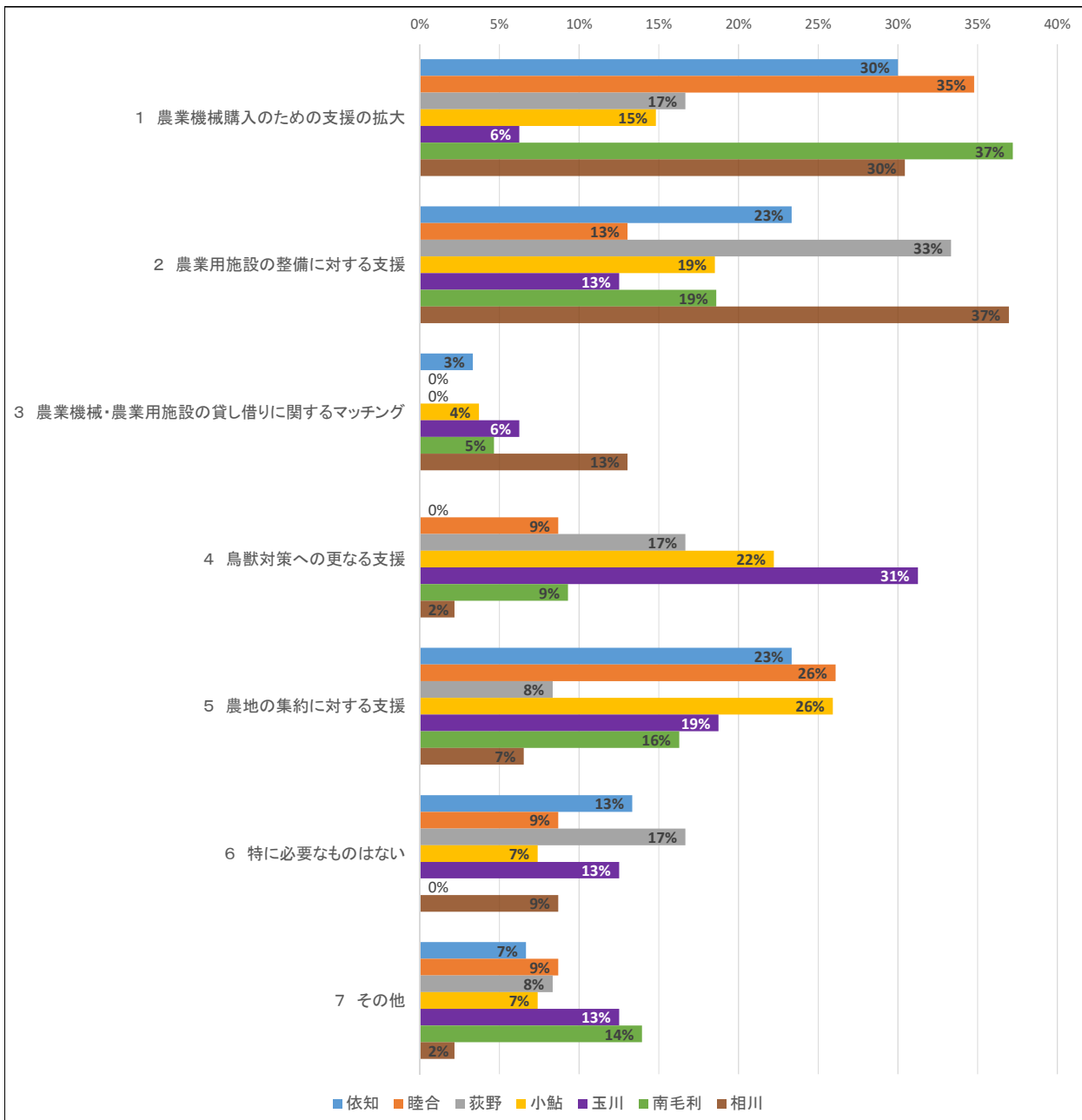
	1 農業機械が高額なため、故障しても買い替えができない	2 輸入価格の上昇による生産資材の高騰	3 農作業による粉塵や機械作業音に対する周辺からの苦情	4 後継者がいない	5 期待しているような収入を得ることができない	6 周辺農地が転用されていくことに対する営農環境の悪化	7 鳥獣被害や家畜伝染病への危機感	8 特に問題はない	9 その他	回答数
依知	11	10	7	8	12	7	3	1	0	59
睦合	19	17	12	14	20	12	5	2	0	—
荻野	8	8	2	10	8	7	2	0	3	48
小鮎	17	17	4	21	17	15	4	0	6	—
玉川	7	6	4	6	6	5	5	2	2	43
南毛利	16	14	9	14	14	12	12	5	5	—
相川	3	10	4	4	6	3	5	0	4	39
合計	8	26	10	10	15	8	13	0	10	—
依知	4	5	0	10	9	1	4	1	1	35
睦合	11	14	0	29	26	3	11	3	3	—
荻野	17	19	11	13	14	10	4	0	4	92
小鮎	18	21	12	14	15	11	4	0	4	—
玉川	17	18	9	14	11	14	1	0	4	88
南毛利	19	20	10	16	13	16	1	0	5	—
相川	67	76	37	65	66	47	24	4	18	404
合計	17	19	9	16	16	12	6	1	4	—

【問3】農業を続けていくため、あなたが必要だと思う市の支援を教えてください。



	1 農業機 械購入 のため の支援 の拡大	2 農業用 施設の 整備に 対する 支援	3 農業機 械・農業 用施設 の貸し借 りに関す るマッ チング	4 鳥獣対 策への 更なる 支援	5 農地の 集約に 対する 支援	6 特に必 要なも のではない	7 その他	回答者数
20・30代	2	4	1	1	3	0	1	12
	17%	33%	8%	8%	25%	0%	8%	—
40代	2	4	0	1	4	0	1	12
	17%	33%	0%	8%	33%	0%	8%	—
50代	4	7	2	1	2	1	2	19
	21%	37%	11%	5%	11%	5%	11%	—
60代	19	12	3	5	10	3	8	60
	32%	20%	5%	8%	17%	5%	13%	—
70代	20	19	2	11	13	12	5	82
	24%	23%	2%	13%	16%	15%	6%	—
80・90代	8	4	3	3	3	2	0	23
	35%	17%	13%	13%	13%	9%	0%	—
合計	55	50	11	22	35	18	17	208
	26%	24%	5%	11%	17%	9%	8%	—

【問3】農業を続けていくため、あなたが必要だと思う市の支援を教えてください。

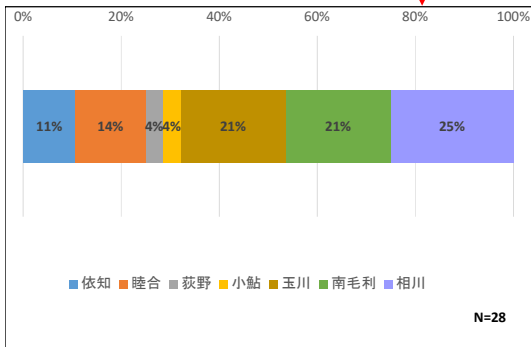
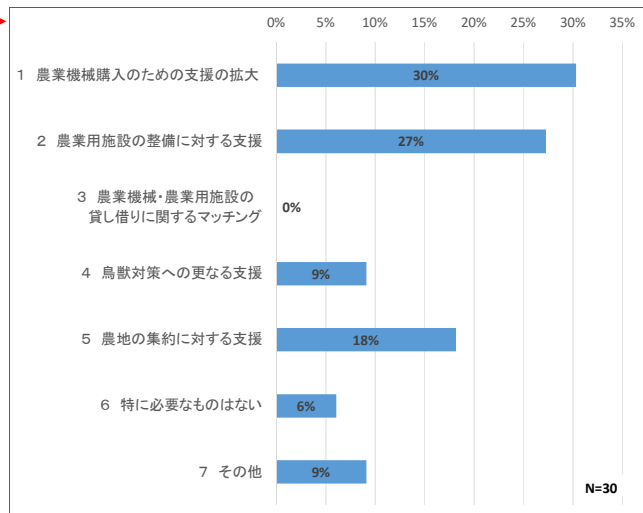
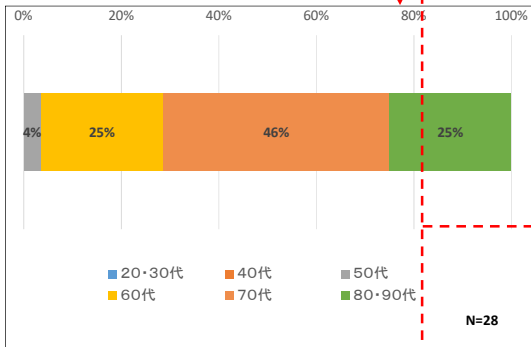
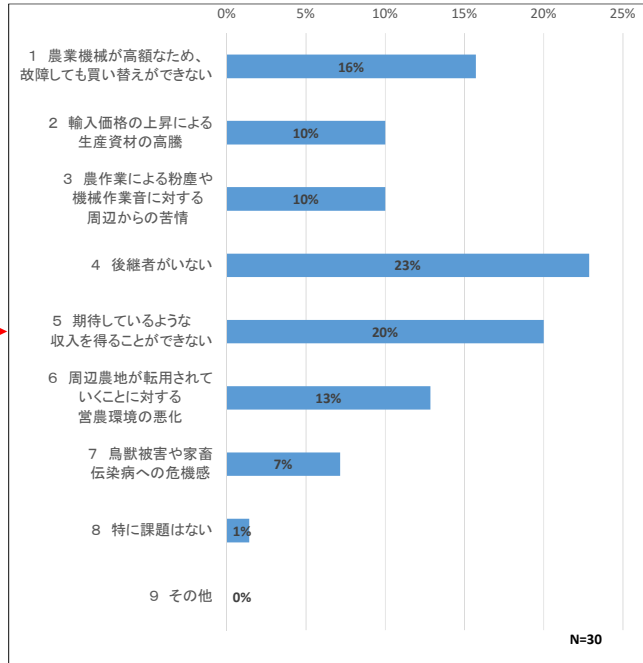
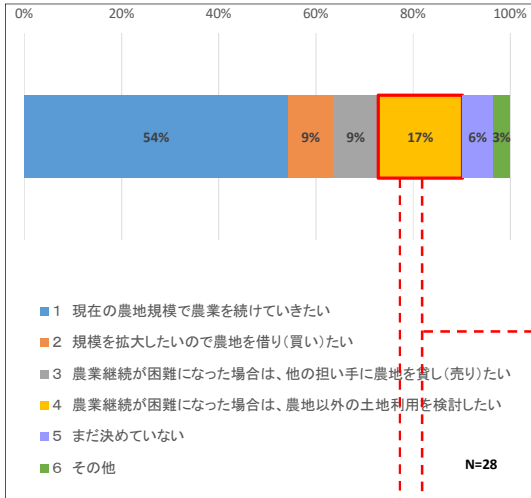


	1 農業機 械購入 のため の支援 の拡大	2 農業用 施設の 整備に 対する 支援	3 農業機 械・農業 用施設 の貸し借 りに関す るマッ チング	4 鳥獣対 策への 更なる支 援	5 農地の 集約に 対する 支援	6 特に必 要なも のではない	7 その他	回答者数
依知	9 30%	7 23%	1 3%	0 0%	7 23%	4 13%	2 7%	30 —
睦合	8 35%	3 13%	0 0%	2 9%	6 26%	2 9%	2 9%	23 —
荻野	4 17%	8 33%	0 0%	4 17%	2 8%	4 17%	2 8%	24 —
小鮎	4 15%	5 19%	1 4%	6 22%	7 26%	2 7%	2 7%	27 —
玉川	1 6%	2 13%	1 6%	5 31%	3 19%	2 13%	2 13%	16 —
南毛利	16 37%	8 19%	2 5%	4 9%	7 16%	0 0%	6 14%	43 —
相川	14 30%	17 37%	6 13%	1 2%	3 7%	4 9%	1 2%	46 —
合計	56 27%	50 24%	11 5%	22 11%	35 17%	18 9%	17 8%	209 —

問1 ご自身の農業経営や農地について、今後(5年~10年程度)どのようにしようとお考えですか。

問2 農業を続けていくに当たり、どのようなことが課題であると考えられますか。

問3 農業を続けていくため、あなたが必要だと思う市の支援を教えてください。



○ヒアリング概要

	課題と感じていること	支援が必要であると感じていること
営農継続に向けた支援について	<ul style="list-style-type: none"> ●近年の生産資材の高騰などについてはこれまでと危機感が違う。先が見通せない。不安を感じる。 ●生産資材、小麦、野菜などの価格が上昇している中で米価だけが上昇していない。水稻農家は厳しい。 ●農作物には相場があり、価格転嫁できるものとできないものがある。価格転嫁が難しい農作物も値上げせざるをえない。 ●農業だけでは十分な所得を得ることができない。 ●担い手、後継者がいないのは職業として魅力がないから。後を継いでくれと言えない。 ●厚木市は多品目多品種で指導員も指導が困難であるし、生産者も専門的な知識の習得が難しい。 ●水稻は施設の老朽化が進んでいてその場しのぎの対応となっている。 ●小規模な農業者は市の補助事業が活用できない。 ●支援については、新規就農者と農業後継者を分けて考えるべきではない。後継者が経営を継承するころには、支援を受けた新規就農者と経営面での経験に差が生じてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでは補助対象の農業者も多かったが、近年農業者は減少傾向にある。分母が少なくなった分、補助金の補助率を引き上げるべき。大胆な見直しが必要である。 ●肥料等の経費削減のためにも土壌診断は必要。診断の迅速化と診断内容の正確さが求められる。 ●補助に対する条件が多いので補助条件を緩和して支援を拡大する。補助金額が減少しても対象者を拡大する。レンタルなども補助の対象とする。 ●農業者の所得を向上させるためには、農作物を購入してもらう消費者、消費地への出荷に対する支援をすべき。 ●これ以上の機械等の補助は不要。農業の魅力はある。行政は魅力発信の部分で支援していくべき。次世代の農業後継者を育成するためにも農業婚活への支援も必要ではないか。 ●SDGSやカーボンニュートラルの取組みの一環として、畑に炭を撒いてCO2の削減や取引に対する支援をすべき。 ●農業基盤整備の全面的な見直しが必要な時期にきている。 ●農業者への補助ではなく、農作業のサポートをしてくれる方に対して支援が必要ではないか。 ●農業後継者へも新規就農者と同等の支援が必要である。
農地の保全について	<ul style="list-style-type: none"> ●厚木市はインター整備などで都市的土地需要が高い。転用件数も近年増加している。 ●農地は平場だけではない。斜面地や不正形地など貸借が困難な地域がある。 ●アンケートで回答の多かった現状維持についても、潜在的に農地以外の土地利用をしたいと考えている農業者は多いはず。 ●農地を保全に対する行政の方向性が示されていないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農地流動化奨励金の金額を見直すなど、貸し借りしやすい環境をさらに整備する。 ●斜面地などが適している品種品目がある。どのような農地でも貸し借りに関する情報は必要である。 ●市民農園として多数の利用者に活用してもらう。 ●小学生の学習の場として農地を貸し出す。